

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

ZaPASS JAPAN 株式会社

【サービス名称】

ZaPASS AIコーチング×AIエージェント

【サービスの支援項目】

カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス

2026年1月

AI COACHING

ZaPASS

忙しい教職員のための

ZaPASS AIコーチング

AIコーチングは、日々多忙な教職員の皆様が、
ご自身の思考や感情に丁寧に向き合うための「内省の伴走者」です。



コーチの問いかけを通して
価値観の言語化を助け、
自己成長を促進

場所や時間を選ばず、
匿名でどんな些細なテーマ
でも気軽に相談可能

悩みを具体化し、
意思決定から行動まで
シームレスにサポート

活用シーン

業務・
タスク整理



やるが多すぎて何から手をつけるか迷っている時の優先順位付け。

自己内省・
成長



授業の方向性やマネジメントスタイルについて考えを整理したい時や、研修後に学びを定着させるための振り返り。

不安・
モヤモヤ解消



生徒や保護者との関わり方や面談の進め方などに不安やモヤモヤを感じ、何が引っかかっているのか整理したい時。

■ 探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴

ZaPASS AIコーチングは、多忙な日常を送るユーザーが、自身の思考や感情に向き合うための「内省の伴走者」となるサービスです。コーチングのスタンスやノウハウを学習したAIコーチが、ユーザーの悩みや状況に対して適切な「問いかけ」を行います。ユーザーはこの問いかけにチャットで回答していくことで、自分一人では気づけなかった価値観の言語化や、複雑に絡まった思考の整理、意思決定から具体的な行動までをスムーズに行うことができます。PCやスマートフォンからチャット形式で、24時間365日、場所を選ばず匿名で利用できます。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

成長途中の児童生徒や、その成長をサポートする教職員にとって、漠然とした悩みは尽きません。これらの悩みに対してAIコーチを活用して言語化し、AIエージェントが具体的なアクションを支援することで「悩みを、強みに。」させるサービスです。ChatGPTやGeminiなどの生成AIでは表面的な回答がすぐに返ってきますが、AIコーチングでは悩みの奥にある真の問題について問いかけることで、相談者に深く考えるサポートを行います。そのため結果として相談者の納得度が高い回答が導き出せるようになり、高次元の実行につながっていきます。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

新しい教職員と、学年主任のようなベテラン教職員の間では、日々生徒の悩みについて対応策を相談しています。とある学校では、AIコーチングとのやり取りにより自分で先に考えて実行した結果、教職員同士の打ち合わせ時間が5分の1まで削減されており、業務効率化につながりました。

■探究・校務改革支援サービスの概要

(3)サービスの活用場面

生徒側：

- ・探究学習や進路指導の事前整理や振り返り
- ・モヤモヤやイライラなど、感情の整理をしたいとき

教職員側：

- ・授業の方向性や生徒との関わり方の方針を整理したいとき
- ・面談や1on1で話したいことを事前に整理したいとき
- ・研修やワークショップ後の振り返り

(4)1サービスあたりの標準販売価格

- ・1ユーザーIDあたり月額利用料1,000円

※利用料にアカウント発行作業も含まれます。

※利用料に通信費は含まれません。

- ・初期導入費用 300,000円、機能改善・最適化費用100,000円（いずれも税抜金額）

2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）

- ・初期導入時に1か月間の導入支援（現場のヒアリングと利用方法のガイダンス）を行います。
- ・毎月、機能改善や最適化を行い、教育機関の個別事情に合わせたサポートを行います。（相談内容に応じた資料、利用状況や学校の個別事業に合わせた最適な活用方法の提案）

当社のサービスは、①先生・生徒の「悩み」の言語化・相談を行い、②AIコーチングによる「悩みの言語化」やAIエージェントによる「解決のための知恵」を獲得し、③AI対話履歴・テキストデータを匿名でマイニングし、④組織の潜在課題を抽出して重要度・緊急度を分類組織施策へ転換して解決に導きます。

児童生徒・教職員が抱える課題

児童生徒側の抱える課題例

- ・学習意欲やモチベーションが上がらない
- ・自分の進路を考えるにあたり、何がやりたいのか・できるのかがわからず自問自答が続く
- ・日頃モヤモヤとしているが、自分の悩みが言語化出来ない

教職員側の抱える課題例

- ・生徒側からの探究支援方法やモチベーション向上に関する相談が多いが、どのようにして生徒のやる気を引き上げたらよいかわからない
- ・教師自らのキャリアプランや働き方についてどのようにすれば良いかわからない

サービスが果たす役割

匿名で回収された相談データを基に、単語の共起分析などを行い、その結果を分析結果としてご報告します。

児童生徒からの相談や悩みをAIコーチングに入力することで、コーチならばどのような問いかけをするのかを学習できます。忘却曲線による復習機能も搭載されており、相談や悩みに対応するためのスキル向上時間の節約にもつながります。

また、教職員自らのキャリアプラン等に関する悩みを入力することで、知識・体験・気づき・習慣・ホメオスタシスの壁を乗り越えるサポートを行います。

サービスの活用風景・授業の流れ

教職員が抱える日々のリアルな悩みに対して、AIコーチングを通じて以下のような相談が行われました。

1. 心身のコンディションとメンタルケア

- 「疲れが取れない」といった体調面の悩みや、仕事量・ストレスに関する相談。

2. 業務改善・タスク管理の具体化

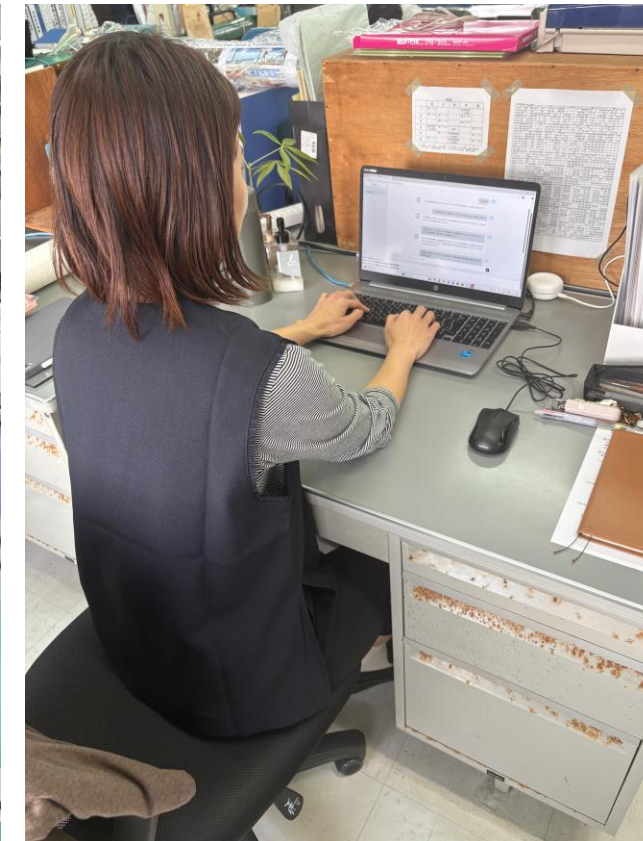
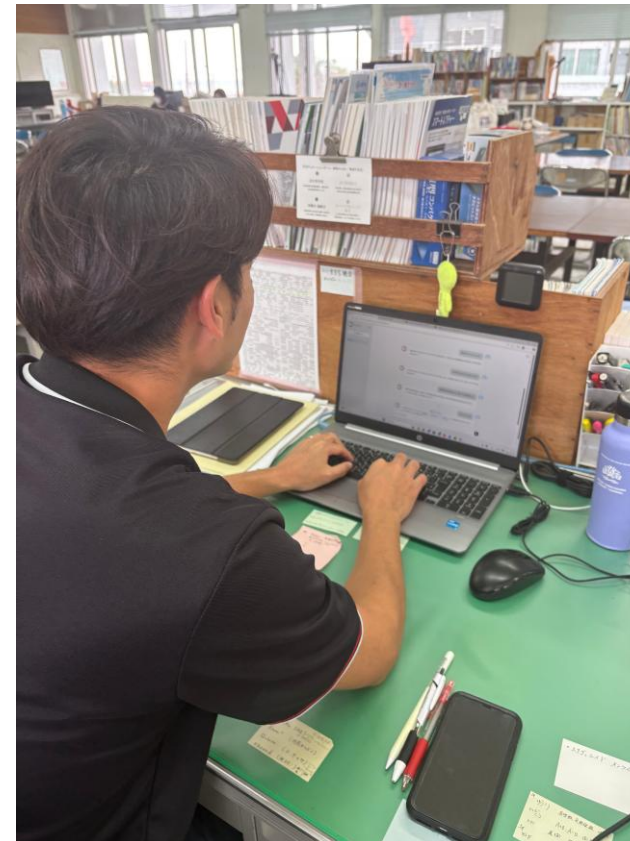
- 肥大化した仕事を減らす方法の検討や、タスク整理・リストアップの具体的な手法に関する相談。
- 次の学期の準備に向けた業務の洗い出しと、それに付随する不安点の解消。

3. 授業運営・生徒サポートの検討

- 探究学習の授業における生徒への関わり方やサポート方針の相談。
- 新たな授業案や教育活動に向けたアイデアの壁打ち。

4. 研修の振り返りと実践への接続

- 職員研修の内容を深掘りし、学びを言語化する振り返り。



本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	校	学校等教育機関数	校
--------	---	----------	---

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
	沖縄県教育委員会	沖縄県立都総合実業高校	沖縄県	高等学校	教職員	朝の業務・事務・生徒指導

定量的効果検証

1. 調査概要

期間中のAIコーチング利用ログ（相談回数・時間）に基づき、従来の対面相談による時間コストと比較分析を実施。従来の対面形式で11回の相談を行った場合、最大で約5.5時間を要するところ、AIの活用により1時間以内に収まった。これにより、教職員全体で数時間規模の「教育活動に充てられる時間が創出された。

2. 相談時間の創出と教職員間の業務効率化（定量的効果）

実績データ

- ・合計相談回数: 11回
- ・平均相談時間: 5分～10分

導入前後の比較分析

比較項目	従来の対面面談 (Before)	AIコーチング (After)	削減効果 (1件あたり)
所要時間	15分～30分	5分～10分	最大約20分 (66%) 削減
付随コスト	双方のスケジュール調整、移動	即時利用可能	調整コストをゼロ化
他者への影響	相手 (同僚・管理職) の時間を拘束	自己完結 (セルフ形式)	相手側の時間消費をゼロ化

定性的効果検証

本年度の導入を通じ、AIコーチングは教職員にとって「メンタルケアの窓口」としての役割と、「実務的な思考整理のパートナー」としての役割の両面で機能した。具体的には以下の3点において成果が見られた。

① 校務効率化とタスク管理による心理的不安の解消

多忙を極める教職員にとって、漠然とした「仕事量への不安」をAIとの対話を通じて言語化・構造化できたことは大きな成果だったとのコメントをいただいた。

具体的な活用事例：次学期に向けた準備事項の洗い出し、タスクのリストアップ、優先順位の整理。

成果：「仕事を減らす方法」を客観的に検討する時間を設けることで、闇雲に業務に当たるのではなく、戦略的に校務を進める姿勢が醸成された。これにより、学期末・学期初特有の心理的ストレスが緩和され、疲労感の蓄積を防ぐ一助となった。

教職員のコメント：次の授業の準備に追われて生徒との対話時間が後回しになりがちだったが、AIを通じてタスクや優先順位の管理を行い、作業が整理されたので気持ちが楽になった。

定性的効果検証

② 研修成果の定着と授業実践への還元

外部研修や職員研修を受けた後の「振り返り」の場としてAIコーチが活用された。

具体的な活用事例：研修内容の深掘り、研修で得たアイデアを実際の授業でどう実現するか（Doへの落とし込み）の相談。

成果：研修を受けっぱなしにせず、AIとの対話を通じて「自校・自クラスでの実践」に変換するプロセスが生まれた。特に、実施に向けた懸念点や不安をAI相手に吐き出し、解消策を壁打ちすることで、新しい取り組みへの心理的ハードルを下げる効果が確認された。

教員コメント：研修受講後に実際の授業を行うための用意をしたが、うまくいかなかった点をAIに相談し、解消策が出てきたことで、授業に向けた心理的ハードルが下がった。

③ 探究学習における指導スキルの向上

「探究・校務改革支援補助金」の目的に合致する、生徒サポートに関する相談も行われた。

具体的な活用事例：探究学習の授業における生徒への接し方や、プロジェクト進行のサポート方法についての相談。

成果：教員自身がAIからコーチングを受ける体験をすることで、「答えを教えるのではなく、問いによって生徒の思考を促す」というコーチング的アプローチを疑似体験し、実際の生徒指導に活かすという好循環が期待できる活用がなされた。

教職員コメント：生徒との個別相談を行った際に、その場で解決策や対応方法を思いついたまま答えることがあったが、AIコーチングを使うことで生徒の思考を待ったり、促すような問いかけを行うことができるようになった。

「入力したことに対して常に質問で返ってくるのが新鮮だった。正直、最初は『答えを教えてほしい』と思う場面もあったが、問いかけに答えるうちにコーチングとはこういうものか、というプロセスを体感できた。」

「自分のモヤモヤを深掘りしたい時、普段使っているGPTはすぐに解決策を出しがちだが、AIコーチングは一度受け止めてから返してくれる安心感があった。思いもよらなかった言葉選びや視点をくれるので、一人で行き詰まった時に役立つと感じた。」

「どう活用すればいいかAIコーチ自身に相談した際、色々と質問をしてくれたが、時にはやり取りがループしてしまい、解決のアイデアが返ってこず難しく感じる場面もあった。ただ、それは解決策を求めるのではなく、自分の中を整理するプロセスなのだとして理解するきっかけにもなった。」

「『答えは自分の中にある』という前提を理解して使うと効果的だと感じた。チャット画面に『答えを出すのではなく、モヤモヤに気づくための場です』といったガイドがあれば、初めての人でも戸惑わずにスタートできそう。」

「一問一答の逆質問に機械的なフォーマットを感じ、少し難しく感じる瞬間もあったが、深めようとして一度受け止めてから返ってくる姿勢は好印象。今後は解決策に強いAIと差別化しつつ、さらに新たな視点をくれるエージェント的な要素が加わることを期待している。」

「仕事の優先順位を整理する際、問いかけによって『なぜその状態を望んでいるのか』という自分の感情まで深掘りできたのは新鮮だった。PCやスマホから手軽にできるからこそ、活用の目的やコツがより明確に伝われば、さらに多くの教職員の助けになると感じた。」

■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

最大の課題は、学校側の目的が途中で変わり、こちらの提供価値（対話・内省支援）と現場の活用ニーズ（学科間連携や授業に直結する施策）にズレが生まれたこと。結果として教員の優先度が上がり利用が進まず、問い中心の体験も「難しい／ループする／機械的」に感じられて離脱や「GPTで十分」につながった。解決策は、探究学習や対話文化に力を入れる学校に導入先を絞り、初回5分の使い方テンプレと短時間ルーティン、ループ脱出（要約→選択肢→次の一歩）で体験を改善すること。

直面した課題

① 組織的な導入環境と目的設定のミスマッチ

当初は教職員間の対話活性化を目的としていたが、年度途中の組織方針の変更により、現場教職員がAIコーチングに充てるリソース（時間・意識）を十分に確保できなかった。その結果、日常的な校務の中にサービスを組み込む動機付けが弱まった。

② 既存AIの利用習慣による期待値のズレ

ChatGPT等の「回答を得るためのAI」に慣れている教員ほど、AIコーチングの「問いによる内省」というプロセスに対し、「答えが返ってこない」という違和感を抱きやすかったことが判明した。ツールの特性（解決策ではなく内省を促すもの）が利用前に浸透しきれず、初回体験時の戸惑いに繋がった。

③ 活用シーンの具体化と問いへの返答の難易度

多忙な業務の中で「何を、いつ相談すべきか」の判断が個人に委ねられていたため、利活用が一部の教職員に限定された。また、AIからの鋭い問いに対し、どう回答すべきか迷う場面や、対話が深まる過程で停滞感を感じる場面があり、自己完結型の対話を継続するための「伴走支援（ガイド）」の必要性が浮き彫りとなった。

解決するための改善策

① 活用ニーズの高い領域への集中導入と動機付け

探究学習の実践や、生徒・保護者対応に力を入れている層など、コーチング的アプローチの必要性が高い場面に絞って導入を提案する。導入時には、最初の5分で効果を実感できる「具体的な入力フォーマット」や「返し方のヒント」を提示するミニ研修をセットにし、心理的ハードルを下げる。

② 校務ルーティンへの組み込みと役割分担の明確化

「授業後3分の振り返り」や「放課後のタスク整理」など、短時間で完結する具体的な活用タイミングをマニュアル化する。また、情報収集は汎用型AI、思考の深掘りはAIコーチングという使い分けのベストプラクティスを提示し、教職員の思考の武器としての位置づけを明確にする。

③ 対話体験の高度化とナビゲーションの改善

対話が停滞（ループ）した際に、AI側から「ここまでの要約」や「次のアクションの選択肢」を提示するような、前進感を生むアルゴリズムの改善を検討する。あわせて、AIからの質問に「その問いの意図」や「返答の例」を添えることで、コーチングに不慣れた利用者でも迷わずに自己対話を深められる体験設計を構築する。

社名	ZaPASS JAPAN 株式会社
代表	代表取締役 足立 愛樹
設立年月	2019年2月5日
本社	東京都千代田区平河町2-5-3
資本金等	2,500,000円
売上高等	売上高174,854千円 経常利益▲34,385千円（2024年12月決算時）
従業員数	4人
事業内容	<p>当社はコーチングサービスを事業の柱として設立しました。主たる事業はビジネスパーソンの属性や業態に合わせて、最適なコーチをマッチングさせる事業ですが、「管理者支援/育成プログラム」や「離職防止/エンゲージメントプログラム」など提供サービスには細かなコースを作成しています。</p> <p>またオンライン対面型のコーチングサービスを補完するものとして「ZaPASS AIコーチング×AIエージェント」や「ZaPASS Personal Coaching as a service」の開発も行っており、管理職の時間を削減しつつも変化の見える化を進めています。</p>

■お問い合わせ窓口

担当:代表取締役 足立 愛樹

電話:080-9579-1874

Mail:adachi@zapass.co